同志社大学国文学会彙報

昭和六十一年度国文学会活動状況

〈国文学会総会〉　十一月二十三日　光塩館会議室

●総会

●研究発表

「以呂波物語について
——大師物浄瑠璃の展開に即して——」
山田　和人（本学専任講師）

●講演

「賢治の文学的内面の追跡」
内田　朝雄（俳優）

〈同志社国文学二十八号〉　十二月三十日発行

昭和六十一年度卒業論文題目

明石入道論
——「をこ」再検討——　西根　輝男

『源氏物語』宇治十帖の世界
——春秋に彩られた地——　作田　真美

『源氏物語』の春秋　内田　敬子

古代天皇と随行神
——古事記の神武東征伝承を中心に——　西原　義幸

旅と伝説の詩人　高橋虫麻呂論　正木　敦子

人麻呂歌集七夕歌　野崎　真奈子

東歌の再検討
——その性格分析を通して——　小田　加奈恵

柿本人麻呂における神話的表現
——〈時間〉と〈空間〉の構造——　小川　祐子

東歌論
——序詞表現を中心に——　岡田　祐子

額田王論
——その歌の在り方——　大石　英樹

山部赤人の吉野讃歌　富田　美和子

源氏物語「夕顔巻」
——和歌の方法について——　桂田　太

源氏物語論とその受容　小西　康夫

古事記歌謡「神語」歌論
——儀礼的性格をめぐって——　朝倉　環

『源氏物語』における垣間見の方法　天野裕子
『源氏物語』の和歌の機能
——光源氏と朱雀帝の贈答歌について——　石田享子
『源氏物語』の表現の特質について
——若紫巻「あさましかりし」をめぐって——　中田丹理
『源氏物語』若紫巻における救済の構造　龍佳代子
『讃岐典侍日記』の叙述の視点　榊原淳子
『源氏物語』における宇治八宮の役割　坂上明子
『源氏物語』における儀礼としての結婚の意義　佐々木理恵
住吉物語における話型の構造に関する考察
——古本・流布本・広本の異同を手がかりとして——　都木かおり
源氏物語における音楽の機能
——須磨・明石を中心に——　樋口直之
源氏物語における讃美　柴田太
『平家物語』における平知盛像の分析　藤田佐智子
『平家物語』における源頼朝をめぐって
——『覚一本』『延慶本』を中心に——　狭間弘美
軍記物語における義経像
——『平家物語』から『義経記』へ——　林朗子
『今昔物語集』の編纂目的に関する一考察　井ノ口富美
『太平記』における楠正成　井上充夫
『平家物語』に見られる平重盛像　葛城博子
『平家物語』における合戦譚考　木村寿春
『平家物語』灌頂巻の成立と構造
——鎮魂と救済の物語として——　小林妙
『徒然草』における無常観について　小久保升雄
『平家物語』の構想と清盛造型の論理
——史実と説話と物語の間——　小松崎昌美
『平家物語』における義仲像
——その矛盾について——　村瀬真百合
『平家物語』における「天道」叙述　西野晋一郎
『建礼門院右京大夫集』の主題をめぐって

延慶本『平家物語』における皇統叙述考　小川千鶴
『太平記』における足利尊氏の形象と叙述方法に関する考察　大脇俊朗
『平家物語』における死の諸相　渡辺治男
義経の人物像——『平家物語』・『義経記』を中心にして——　多田尚美
近世『太平記』受容小考　森下栄一郎
近松心中浄瑠璃における呼称の問題——女主人公の場合・『曽根崎心中』に関する考察——　田中正人
『堀川波鼓』論——罪人からヒロインに——　秋山みゆき
『日本永代蔵』の「才覚」について　飯島珠美
『好色一代男』における古典の引用とパロディ　可畑有香利
十返舎一九伝記考　北村政文
『曽根崎心中』における「観音廻り」の意義について　松野清和
『曽根崎心中』二つの道行　杉本浩史
『曽根崎心中』論　手平裕紀
「東海道中膝栗毛」について　今井直良
本居宣長の世界認識の方法——「日の神」論争をめぐって——　山村幸伸
『曽根崎心中』の研究　西川浩一郎
芥川龍之介における今昔物——芋粥について——　永山勇人
『春琴抄』論　阿部雅行
『夢十夜』における無常観　近田道代
『たけくらべ』考　井上武士
『玄鶴山房』論　岩出典子
『それから』論——作品に於ける社会受容の一考察——　川谷理恵子
尾崎紅葉「三人妻」の世界——本妻お麻を中心に——　木村功
「かのやうに」について　近藤真紀
　小寺朝子

芥川龍之介の母親像　西千佳子
芥川龍之介の軌跡
——切支丹物をめぐって——　大鉢通代
「地獄変」論
——その芸術至上主義について——　田中誠司
「地獄変」についての考察
（芥川の偏見とその過程について）　梅田智之
『和解』論　竹内美千子
「羅生門」
——二人の下人——　伴敏雄
正宗白鳥の大正後期戯曲
——白鳥の文学活動に於けるその意義と「人生の幸福」を対象としたその様相の考察——　細川雅彦
転向作家としての中野重治　安田えみ
谷崎潤一郎「作品における『母』」　今田伸二
『草枕』と漱石の女性観　山口信
「忘れえぬ人々」論
——登場人物に見られる「天地生存」を中心に——　小山健次

『掌の小説』にみる駒子、葉子の女性像　岩堀規夫
「駈込み訴へ」論
——太宰は聖書をどう読んだか——　川畑馨子
林養賢はなぜ放火したのか
——水上勉にとっての「金閣炎上」——　喜多あおい
安岡章太郎と「劣等生」　熊谷勝利
永井荷風の原風景
——『日和下駄』を中心に——　國松美樹
「山椒魚」論
——改稿について——　牧野宏美
志賀直哉と内村鑑三　松尾裕明
『豊饒の海』論　松内りか
「うたかたの記」小論　松浦志保
太宰治のユダ的意識
——「駈込み訴へ」を軸として——　中川正文
「細雪」論
——雪子を中心として——　中村圭子

「どんぐりと山猫」論
——どんぐりに焦点をあてて——　中村則幸
「山月記」における時代の影響　野瀬吉信
『豊饒の海』論
——「月」をめぐる物語として——　小原千穂子
泉鏡花「山海評判記」
——背景によるイメージ喚起法——　小野啓子
「ガラスの靴」論
——その根底にながれる作者の一貫したテーマを探る——　大江秀明
遠藤周作論　大政敏子
井伏鱒二論
——自選集の改稿をめぐって——　杉本豊彦
「春昼」「春昼後刻」論　田渕理加
作品集『刺青』論　高田玲
坂口安吾の古代史論　山田重昭
「魚服記」作品論
——水中のモチーフに触れながら——　山中健一
吉行淳之介「夕暮まで」
——その小説構成を中心に——　橋本和久
川端康成について　広瀬健郎
細井和喜蔵論
——「奴隷」「工場」から——　大川洋央
ことわざにおける語彙
——日本と韓国の比較——　深見哲生
万葉集において未然形の例の見られる下二段活用動詞の意味について
——動詞活用起源の研究のために——　松本秀輔
日本語の句読法
——テンと中点を中心に——　森司朗
全国共通語への途
——標準語・共通語・理想の言語について——　中島宗一郎
『春色梅暦』の用字　小穴明美
女房詞の発生と展開　岡本宜子
兵庫県三原郡南淡町沼島の方言語彙の考察
——漁業語彙を中心に——　岡崎香織
並立助詞「と」の通時的考察
——古代和文における用例分布の分析——

杉村淳一

国字についての一考察〈文字・語彙・文化〉　高畑直子

昭和六十一年度修士論文題目

源氏物語テクストの伝承性
——火影のかいま見——　伊藤千賀子

『神道集』・「熊野権現事」成立考　春日清彦

徒然草本文批判序説
——烏丸本系統の成立——　西田安実

西住の研究　山村孝一

非連濁規則と連濁傾向
——『日葡辞書』から『和英語林集成』へ——　戸田綾子

日韓両言語における音象徴語の比較対照的研究　許卿姫

日韓両言語の敬語の比較対照研究
——敬語の構造と特色を中心にして——　李羲斗